



ロバート・ヘンリソン 『短詩集』 その一

著者	西納 春雄, 安藤 光史
雑誌名	言語文化
巻	1
号	1
ページ	239-261
発行年	1998-07-31
権利	同志社大学言語文化学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000004293

ロバート・ヘンリスン『短詩集』その一

西 納 春 雄 訳
安 藤 光 史

序

本翻訳は、訳者たちが取り組んでいる、中世スコットランド詩人ロバート・ヘンリスンの詩作品全訳の一部を構成する¹。訳者たちはこれまでに、「クレセイドの遺言」と「オルフェウスとエウリディケ」の二作品の翻訳を発表している²。このたびの翻訳では、『短詩集』(The Short Poems)のうち、7編、「受胎告知」("The Annunciation")、「僧院散策」("The Abbey Walk")、「血染めの衣」("The Bludy Serk")、「善女の衣装」("The Garmont of Gud Ladeis")、「鵜呑みの戒め」("Against Hasty Credence")、「老齡礼賛」("The Praise of Age")、「疫病蔓延に祈る」("Ane Prayer for the Pest")を取り上げた。

ヘンリスンは、主要作品である『寓話集』「クレセイドの遺言」「オルフェウスとエウリディケ」以外に、12編の短詩を残した。これらは主題から、宗教詩と教訓詩に大きく分類することができる。ヘンリスンはこれらの詩を、中世の詩人のほとんどがそうであるように、原典となった詩作品に触発され、あるいは構想を借りながら、独自の意匠をこらして作り上げた。

いずれの短詩も、主題や語り口は、ヘンリスンの詩作品をつらぬく基調を反映して、きわめて真面目で教訓的である。それぞれの詩の成立年代や成立順は明かではない。行数、詩形は多様であるが、弱強5詩脚を一行として、

¹「言語文化」1-1：239 - 261ページ 1998。
同志社大学言語文化学会 © 西納春雄 / 安藤光史

隔行押韻した形を基本としている。一連8行より構成される詩が9編でもっとも多く、残りの3編は、一連がそれぞれ4行、12行、13行より構成されている。押韻は厳格で、破格は少ない。もっとも数の多い8行詩の押韻は、ababbcbc(7編)、abababab(2編)のいずれかである。すべての詩は、最初の4行をababの押韻で開始している。

翻訳にあたっては、日本語として不自然にならない限り、原作品の構文を尊重し語彙を丹念に訳出するようつとめた。底本として用いたテキストは、これまでと同様、デントン・フォックス編になるヘンリスン作品集である³。作品を解釈する際には、これまでの翻訳で用いた辞書類、注釈書のほかに、この翻訳のために編纂した全語彙のコンコーダンスを用いて、語義の再吟味を行った⁴。

受胎告知

喜ばしき愛は死のごとく強く、
 愛を通じて、すべての苦悩は喜びに変わる。
 聖書が証すように、愛する者には
 いかなることもつらくはない。
 愛は、苦しみより我らを救い出す。 5
 高き天の玉座より、ガブリエル
 知らせを託され降り来たり、
 やさしきマリアに出会い、
 そして言う。「神からの、ご挨拶を。
 神は、そなたのうちに、憩いたもう。 10
 罪汚れなき、汝のうちに。
 そなたの運命は、神の定めるところなり。」

この知らせに、やさしい乙女は驚いた。

汚れなき乙女は、畏（かしこ）みて、

言葉なく、黙した。

15

天使は続けて語った、

いかにして彼女の汚れなき子宮が、

無垢のままに子を宿すかを。

この知らせが告げられると、

天上からの光がまばゆく降り注いだ。

20

乙女は地に伏した、

神の恩寵に包まれて。

彼女は貞潔を守り、その腹には、

王となる幼子キリストを、身ごもったのだった。

知らせを語り終えると、

25

使者は天上へと舞い戻る。

並ぶものなき汚れなき王女は

喜びのうちにこれを受け、

子を身ごもりて、待つ。

おお、この世に双ぶものなきやんごとなき乙女、

30

汚れなき乙女にして、かつ母とされるとは。

我らキリスト教徒は、それを固く信じます。

そうして、この母の腹より生まれ来たのは

我らの創造主、神の愛し子、

その方が、清らかな天と地と水とを、

35

恩寵と徳によって導くのである。

愛の川から流れ出す

奇跡は、偉大ですばらしい。
愛の炎は、燃えさかるが、
決して燃え尽きることはない。 40
ガブリエルが、この善き乙女に、
みずから言葉を伝えたとき、
乾いて枯れたアーロンの杖が、
芽を吹いてやまなかった。
羊毛はしとど露に濡れるが、 45
一滴として地に落つることなし⁵。
かくして、母なる処女は、
あらゆる罪から無垢なものとなったのだった。

彼女は奇跡とも言うべき純潔さで、
主を体内に宿す。 50
そして、神は、どんなときにも
彼女を、恐怖より守った。
高き御座（みくら）なる神は、その慈悲の心により、
我らを救済しようと、みずから身を低くされたのだ。
そして、まこと、死ぬことを恐れられなかった。 55
主は我らの安寧のために苦しみを受け、
その血をもって我らを救いたもう。
そして、聖書にあるように、主がよみがえられるとき、
その御業の御慈悲は、
あまねく世界に明らかとなった。 60

おお、貞潔で愛らしき乙女、
そなたの顔（かんばせ）はまことに美しく輝いている。

おお、美しき清らかな花。
 そなたは現世の悪に染まらぬ。
 心より、この祈りを捧げよう。 65
 どうか、私のあらゆる邪悪な所業を許し、
 私を淨いものとして、
 怒れるテルミガンより⁶、
 その鋭い爪より、救いたまえ。
 そして、私の魂を、天へと、速やかに送りたまえ。 70
 そこでは、汝の創り主、もっとも力あるお方が王であり、
 そなたが女王となられるのだ。

僧院散策

壮麗な僧院の中を
 私は一人で散策していた。
 いかなる慰めが
 この苦しみを癒してくれるかを考えながら。
 ふと、わきに目をやると、 5
 壁に書き付けた字句が読みとれた。
 「人よ、そなたがどのような地位にあらうと、
 神に従い、すべてに神を讃美せよ。」

 「そなたの王国も、帝国も、
 権勢も、きらびやかな衣装も、 10
 そなたの望みどおりに永続することはなく、
 風のごとくに消え去ってしまうものなのだ。

金や、すばらしい財産も、
運命の心次第で、失われてしまう。
そのような事例は、日常茶飯のことだから
神に従い、すべてに神を讃美せよ。」 15

「聖書にあるとおり、ヨブはもっとも豊かで、
トビトはもっとも慈悲深かった。⁷
兩人とも逆境に試されて、
ヨブは、富を奪われ、トビトは盲（めしい）となった。 20
盲目は、病であるし、
貧困は、自然の帰結である。
それ故に、兩人とも、忍従のうちに
神に従い、すべてに神を讃美した。」

「盲目で、体が不自由であっても、 25
あるいは、顔に醜い病があっても、
汝の咎（とが）ゆえに引き起こされたものでなければ、
誰もそのことで汝を非難する権利はない。
神を責めてはならない。それは、神の御意志なのだから。
壁を足蹴にしてはならない。 30
そうではなく、心を穏やかにして、静かに祈り、
神に従い、すべてに神を讃美せよ。」

「神は正義によりて人を正し、
慈愛をもって、情けをかけたもう。
神は何人も疑うべきなき判官で、 35
罪人を罰し、また救う。」

人々を統べる君主たる汝が、
やがて、縛られ、奴隷の身に落とされて、
頭陀袋と杖を持った貧しい乞食になり果てるとも、
神に従い、すべてに神を讃美せよ。」

40

「この地上の位の、上から下への
激しい流転と移ろいは、
人の言うように、理由（ことわり）もなしに、
偶然や回り合わせで起こるものではなく、
汝の運命を統べる、高きにまします、神様の
大いなる御摂理によって起こるもの。
それ故に、常に心構えよ、
神に従い、すべてに神を讃美するように。」

45

「富める時にも奢らず、高ぶることなく、
自ら進んで清貧に甘んじよ。
この世の権力も富も、
空虚なものである。
十字架にかかり、汝のために、
苦痛を受けし、お方を思え、
その方は、低きをかかげ、高きを降ろす。
神に従い、すべてに神を讃えよ。」

50

55

血染めの衣

近年聞いた話だが、

あるところに高德の王がいた。

王は、公爵、侯爵、男爵を

配下に従えていた。

王はたいそう高齢で、

5

60年もの間統治していた。

王には嫁がせるべき愛娘がいて、

それは若く、美しい姫であった。

彼女は美の化身であり、

しかも父王の世継ぎであった。

10

物腰は洗練され、誉れ高く、操正しく、

柔和、かつ気品にあふれていた。

彼女は心地よい私室に住み、

その美しさはこの世に比ぶべきものがなかった。

すべての国の貴公子たちは、

15

熱烈に彼女を恋い慕った。

王のそばに、

おぞましい巨人が住んでいた。

巨人は、かのうら若き乙女を強奪し、

彼女を連れ去って、

20

自分の地下牢に閉じこめた。

そこでは日の光を見ることもかなわない。

空腹と、寒さ、そしてひどい渴きに、

彼女は苛まれたのであった。

巨人はこの世に生きとし生けるもののうちで

25

最も醜悪で、
その爪は悪魔の鉤爪（つめ）に似て、
長さは約4尺。
この巨人にとらえられた者は、
理由の正不正（いかん）を問わず、
すべてバラバラにちぎられてしまった。
それほど力はすさまじかったのである。

30

巨人は王女を深い巢窟に
囲い込み、
金や身代金と引き替えにしても
娘を人目に出さなかった。
王が、騎士を遣わし、
その騎士が、たった一人で巨人と戦い、
どちらか死ぬまで
とことん戦うべし、と言い張った。

35

40

王は海路、陸路をたどり、
彼方此方（おちこち）に探し求めた。
巨人と戦い、娘を取り戻す
騎士を求めて。
無双の貴公子が、
この難題を引き受けた。
この美しき乙女への愛により、
見事、約束を果たしたのであった。

45

この王子は堂々と町に入り、

巨人にとらわれた乙女のもとへ向かった。 50
そして、たった一人で巨人と戦い、
これをとりこにし、
その地下牢の中に閉じこめた。
巨人は、たった一人で、
飢えと寒さに苛まれたが、 55
それも因果というもの。

王子は、部屋をこじあげ、その輝く乙女を、
いとしい父の元へと届けた。
この王子はたいそうな深手を負い、
もはや死ぬしかないと思われた。 60
体には見るも無惨な傷を受け、
衣は血に染まっていた。
いったいこの世の中で、
これほど気の毒な男がいるだろうか。

乙女は身もだえして 65
嘆き、悲しんだ。
「私の愛した方はただ一人、
ここに深手を負っておられるお方。
神様、このようなお姿を見る前に、
私の命が果てていたらよかったのに。 70
もしもかないますなら、このすばらしい騎士殿と、
二人で、巡礼の旅に出ましようものを。」

王子はこたえて、「美しき乙女よ、本当に、

私の命ももはやこれまで。

この血染めの衣を受け取り、

75

御身の前に掲げて、

求婚者が来たならば、

まずその衣を、そして次に私のことを思い出せ。」

乙女は言う、「慈悲深きマリア様に掛けて、

仰せの通りすること、誓います。」

80

乙女は衣を見るたびに、

王子のことを思い出し、

心から王子のために祈った。

自分を、あの深い巢窟の、

漆黒の闇に閉じこめられた

85

幽閉の身から救ってくれた王子のために。

そして彼女は命がある限り、

それを、彼女の日課とした。

彼女は騎士をたいそう愛していたので、

いかなる男も受け入れることはなかった。

90

我々も、この乙女のように、我らのために

あらゆることをなして下さった主に帰依せねばならない。

主は罪深き人間を救うために、

残酷にも死に至らしめられたのであった。

だから、昼となく夜となく、

95

我らは主に祈らねばならぬ。

教訓

この王は、天と地における、
三位一体を表し、
人の魂は乙女、
巨人はルシフェルを表す。 100
騎士は十字架の上で死に、
我らの罪を高く購われたキリストで、
激しい苦痛の地下牢は、地獄、
罪は求婚者にたとえられる。

乙女は求婚されたが、結婚しようと 105
迫る男らを、断り続けた。
このように我らも、我らの胸にわきあがる、
すべての罪を退けねばならぬ。
私は、畏（かしこ）みて、我らのために血を流された、
イエス・キリストに祈る。 110
神の裁きが厳しく下る審判の日に、
どうぞ我らに加護をお与えくださいと。

魂は神の愛娘であり、
神の創造したもうたもの。
それが、漆黒の地獄の主、 115
ルシフェルにそそのかされるが、
輝ける天使イエス・キリストに救われる。
礼節正しき人々よ、いざ聞かぬか。
我らを高く購ったキリストの愛を、

ロバート・ヘンリスン『短詩集』その一	251
この血染めの衣に思い出せ。	120

善女の衣裳

もしも私の愛しい女（ひと）が、私を心から愛し、
私の思いを遂げてくださるならば、
私はあの方の体にぴったりの、
この上なくすばらしい衣装を作ってさしあげましょう。

頭にかぶるあの方の頭巾は、
高い誉れの貞操で作り、
良き品行で飾りつけば、
いかなる詮索も彼女を傷つけることはできません。

5

体に直接まとう下着は、
純白な貞節に、恥じらいと
畏（おそ）れとを混ぜて作れば、
それは完璧なものとなりましょう。

10

あの方のドレスは、貞潔で作り、
まことの愛の紐（ひも）を用いて、
丈夫な止め穴に結んで、
決してほどけぬようにいたしましょう。

15

彼女のガウンは、善行で作り、
名声の美しいリボンで飾られる。

リボンには喜びで縁を飾り、
毛皮が美しくあしらわれる。 20

彼女の腰帯は、慈悲深さで作り、
体のなかほどで、ぴったりと止める。
謙譲でできた彼女の外套は、
風と雨とを寄せつけない。

彼女の帽子は、良き作法で作られ、 25
肩衣（ティベット）は、忠誠で、
襟付き肩衣（パートレット）は、黙想で、
首のリボンは、哀れみで作られる。

彼女の袖は希望で作られ、
彼女を絶望から守る。 30
彼女の手袋は、徳行で作られ、
美しき指を包む。

彼女の靴は堅信より作られる。
足を滑らせて、罪に落ち込まないように。
彼女の長靴下は、誠実さで作られたものを 35
与えねばならぬと考える。

彼女がこれらのすばらしい衣装を着れば、
私は、私の幸福に誓って言うが、
彼女はもう、この半分も彼女に似合わぬ、緑色や灰色の、
衣装を着ようとはしないだろう。 40

鵓呑みの戒め

現在、虚言を吐くものたちが増えている。
慈善に根ざした話ではなく、
主人からの感謝を取り付けたいばかりに、
この者たちは、隣人について中傷することも平気だ。
だから、主人たる者は、自分のもとに
噂が持ち込まれたならば、
それを鵓呑みにする前に、
真実にもとづくものかどうかを、確かめねばならない。 5

善き主人は、噂が真実かどうかを、明敏に斟酌する、
誰が、誰の噂を語っているか、
その噂が、好意より出たものか、ねたみから出たものか、
また、噂を語る者が、それを証明できるかどうかを。
その後、両者を申し開きのため、召還し、
法にもとづいて、おのおのに弁明させねばならない。
このように、主人たる者は、裁きにおいて公正を保ち、
人の噂を鵓呑みにしてはならない。 10 15

高貴なお方が、虚言に惑わされて、
正直者を零落させるのは、まことにせんないこと。
まず、最初に、耳に入ったことを信じてしまうと、
正直者の申し開きも聞こうとしなくなる。
讒言を語る者は、巧みに語りかけるので、 20

無実の者の言い分が届かない。

虚言は耳に快いが、安易に信じることは、
決してあってはならないことである。

虚言を語る者は、しばしば大いなる損害を与え、
血で血を洗う争い、不和を生じさせ、
また、主人と家来を仲たがいさせ、
時には罪を犯してもいないのに、追放させることもある。

主人が追従に喜びを覚え、
讒言者を軽々に信ずることがあるならば、
それは、闘争と不和の温床となり、
あらゆる疫病よりも危険なものである。

ああ、賢明なご主人様、追従者は、
あなたに取り入り、無実の者を陥れようと、
あなたの腹心への讒言を行うでしょう。
その時は、即座に両者を召還し、
厳粛に、裁きの席に座り、
訴因をよくよく調査して、判決を下してください。
さもないと、後々に、讒言をすっかり信じたことを、
悔やむ結果になるでしょう。

ああ、邪悪な舌。不和の種を蒔き、
虚言を言いふらして疲れを知らぬ。
おまえは、どんなに強い毒よりも危険だ。
地獄での責め苦こそ、おまえの罪の報いとしてふさわしい。
じっと耳を傾けて、虚言を聞くことに

喜びを見いだす者も、また同じだ。
 なぜならば、虚言を安易に信ずることで、
 不和の大火が燃え上がるからである。

懺言者に耳を貸すことは、戯れでできることではない。
 彼らはどこでも公然と忌み嫌われるからだ。 50
 懺言者は一言で三人を殺す、
 自分自身と、聞いた者と、無実の者の。
 頭巾の下に、彼は二つの顔を隠し持つ。
 涼しい顔に、残忍な舌を隠している。
 これ以上何を語ろうか。主人に神のお恵みがあり、 55
 虚言を鵝呑みに信ずることがありませんように。

老齡礼賛

庭の中、赤い薔薇の木の下で、
 年老いた男が歌うのを私は聞いた。
 その調べは明るく、声は甘美で張りがあり、
 歌声に耳を傾けるのは、大いなる喜びであった。
 私が思うに、彼は以下のように歌っていたようだった。 5
 「もう一度若さを取り戻し、この世の主（あるじ）と、
 王となること、私は望まぬ。
 老いれば老いるほど、天国の至福が近い故。」

「この世は欺瞞で、うつろいやすく、
 悲しくつらいことばかり。 10

真実（まこと）は失われ、虚偽（うそ）がのさばる。

吝嗇が幸を不幸へ追い落とす。

寛容さは失われ、君主からもなくなった。

貪欲こそがこれらすべての原因。

私は若さが去ったことに満足する。

15

老いれば老いるほど、天国の至福は近い。」

「若さには何の価値も私は認めない。

若さには危険が伴うばかりで、

突入りはほんのわずか。年老いるまでは

血のたぎりを止めるものは何もない。

20

だから、むかし快樂に酔いしれても

今身につくものは何もない。

なぜというに、それは全くの虚飾であるからだ。

老いれば老いるほど、天国の至福は近い。」

誰もこの非情な世の中を頼ってはならない。

25

なぜというに、地上の喜びは、必ず悲しみで終わるからだ。

何人（なんびと）も、この世の繁栄を保証できはしない。

今日王とても明朝（あす）には無一物。

一体、神の恵み以外に我らを救うものがあるうか？

神はこの恵みを、我らが過ちを正すために下された。

30

我らの魂を神の栄光のもとに送らんと。

老いれば老いるほど、天国の至福は近い。」

疫病（ペスト）蔓延に祈る

おお、無限の力をそなえた永遠なる主よ、
あなたの高き知には不明なるものは何もない。
現在、過去、未来、さらには、
この世の果てまでを完全に見そなわされる。
哀れな貧しき我らに、どうか憐れみを。 5
あなたは我らの不正を罰するに過つことがない。
おお、主よ、人類の救い主よ、
この危険な疫病から我らをお救いください。

主の中の主よ、どうかお願いします。
その耳を傾けて、我らの苦悩をお聞きください。 10
我らは皆、助けも癒しも奪われて、
あなたの救いを求めております。
もしもあなたが憐れんで、我らの心を励ましてくださらないならば、
あなたのお情けを得られない我らには死あるのみです。
我らは、跪（ひざまず）き、身を低くして、あなたにお願いいたします、 15
この恐ろしい疫病より、我らをお守りください。

我らの咎（とが）を、他の艱難辛苦によって、
罰してくださればよいのに。
天の主よ、あなたのご意志なのですか、
我らがかくもいのち短く、 20
獣のように、懺悔の間もなく死んでゆき、
同輩を見舞うこともできないとは。
ああ、荊（いばら）の冠をかぶったイエス様、

我らをこの疫病から救い出してください。

おお、主よ、飢饉や、病や、飢えで我らを罰して、
この疫病の猛威は軽減してください。
人間が滅びます。人間のために命を投げ出した
あなたでなければ、いったい誰が救えますか？
我らの罪があなたにとって許し難いものだったとしても、
我らの行いが我らの罪をまったく購えないものだったとしても、
主よ、どうか憐れみをお持ちください。我らはあなたの敵ではないのですから。
この恐ろしい疫病より我らをお守りください。

主よ、お情けを。天の主よ、どうぞお情けを。
悔い改めたあなたの民にお情けを。
我らに下されたむごい罰に、お情けを。
滅ぶにしか値しない罪人に、あなたが下された判決、
正義の裁きを取り下げてください。
あなたのお情けなしには、我らは身を守れません。
無惨にも、十字架の上で引き裂かれたお方よ、
我らをこの疫病よりお守りください。

主よ、思い出してください、あなたがその貴い血を
我ら罪人のために流されて、いかに高価に我らを贖われたかを。
あなたが無より作り上げた人間、美德をはぎ取られ、
裸にされた人間をお救いください。
自分の似姿に作った人間にお情けをください。
我らを暴力ではなく、憐憫の情で処してください。
我らは、忘恩のためであることを知っています、

我らがこうして、疫病により罰せられるのは、

主よ、我らが悔い改めて、残酷で、突然襲う

この疫病を避けるよう、恵みをお与えください。

50

これが我らの罪より来るものであることは、よく存知ております。

明白な罪には、いかなる救いもないのですから、

神の正義は死をもって人を罰するのですから。

神は掟に従い何者をも除外しません。

正義を欠くところでは、主の敵意は永遠です。

55

本来は疫病から人を救ってくださるはずなのに。

もしも、掟（おきて）を守る統治者が、

国民を、その罪の故に罰することがないならば、

人を破滅させるような行為は何も起こらないでしょう。

しかし、統治者は露骨な迫害行為に身を任せるので、

60

神は、彼らの懇願を聞こうとはなさらない。

不服従ゆえに、人はすべて罰せられる。

容赦なく、剣あるいは病死をもって。

神には我らに疫病を送る十分な理由があります。

至高の灯火（ともしび）よ、この疫病を治め、

65

我らが、病のうちに死なぬように、お守りください。

あなたの、いと気高き思慮をもって、罰を防いでください。

まことに、憐れみをもって、怠惰さで我らが引き裂かれぬようにしてください。

我らの苦しみは、我らが悔い改めれば、すぐにでも止むのでしょう。

機会を得て、罪から逃れようと、あなたを常に求めた者は、

70

憐れみを受けないまま、引き離されることは決してなかった。

あなたが、かくも高価に贖われたものを失われることはありませんように。

おお、輝かしき王子よ、この日々の苦悩を

取り去ってくださるよう、お願いいたします。

もしあなたがお救いくださらなければ、

75

これは、生き残った者をだます詐欺同然です。

もしも、いと賢きあなたが、この疫病を退治する工夫をなさらぬならば、

いったい誰が、この自業自得の不幸から、我らを救い出してくださるのか、

もしもあなたが、我らの罪を包み込んでくださらないならば、

あなたが、かくも高価に贖われたものを失われることはありませんように。 80

正義が、我らを悪徳から正してくれることを考えると、

おお、至高なる王様、今はあなたの怒りを和らげるときです。

我らの罪は重く、我らは保護を期待することはできません。

あなたが裁き手となって、我らをこの状況より救い出してください。

間に合うように、我らがまだ滅びぬうちに、お引き受けください。

85

我らは過ちのうちに費やした時間を悔いているのですから。

とこしえに、あなたの神性に栄えあれ、

あなたが高価に贖われたものを失われることはありませんように。

訳注

- 1 この翻訳は、1994-95年度の同志社大学学術奨励金を受けた共同研究『中世スコットランド詩人Robert Henrysonの全作品のコンコーダンスと翻訳作成』（安藤光史氏との共同研究）の研究成果の一部である。
- 2 ロバート・ヘンリスン「クレセイドの遺言」安藤光史・西納春雄訳『主流』49号（1988年3月）、133-161、ロバート・ヘンリスン「オルフェウスとエウリディケ」安藤光史・西納春雄訳『主流』53号（1992年3月）、173-200。
- 3 Denton Fox, ed. *The Poems of Robert Henryson*. (Oxford: The Clarendon Press, 1981).

- 4 Haruo Nishinoh, ed, *A Complete Concordance to the Works of Robert Henryson* (Amherst, Mass.: Privately published, 1997). コンコーダンス作成についての技術的な側面は、以下の論文に明らかにしている。西納春雄「Humパッケージを用いた Robert Henrysonのコンコーダンス作成」『同志社大学英語英文学研究』70号(1998年3月), 259-291.
- 5 この部分は、ギデオンの羊毛皮(「士師記」6:37)に言及している箇所である。濡れた羊毛は、この連のモーゼの燃える藪(「出エジプト記」3:2)と、アーンンの杖(「民数記」17:8)と同様に、無垢なまま懐胎した処女マリアを象徴する。
- 6 テルミガンは、イスラム教の邪神。シャルルマーニュの腹心ロランの壮絶な戦いを歌った『ロランの歌』(*Chanson de Roland*)の中で頻繁に言及される。
- 7 旧約聖書外典「トビト書」の内容にもとづいている。善行にもかかわらず盲目になったトビトの目の回復、親族の不幸と救済などの物語を中心に、死者の埋葬、逆縁の掟、敬親、施しの大切さなどを説いている。

(共訳者の安藤光史氏は、愛知工業大学助教授)